MIYASHITA ET AL.

PAT-NO:

JP359003261A

DOCUMENT-IDENTIFIER:

JP 59003261 A

TITLE:

QUANTITATIVE, MEASUREMENT OF CHOLESTEROL

PUBN-DATE:

January 9, 1984

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

MIYASHITA, YOSHINOBU KODERA, HIROMASA

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

WAKO PURE CHEM IND LTD

N/A

APPL-NO:

JP57112414

APPL-DATE:

June 29, 1982

INT-CL (IPC): G01N033/92, G01N021/75

US-CL-CURRENT: 264/532, 436/71

ABSTRACT:

PURPOSE: To carry out diagnosis of various geriatric diseases, by a method

wherein cholesterol in a living body specimen is reacted with digitonin and the

intensity of diffused light from the formed fine particle is measured to

quantitatively measure cholesterol in good preciseness in a reduced amount of

the specimen as compared to a nephelometry method.

CONSTITUTION: Cholesterol or cholesterol ester is extracted from a living

body specimen such as blood by acetone and, after cholesterol ester is

hydrolyzed by a KOH solution, the extract is neautralized by acetic acid. One

drip of a surfactant (pref., a nonionic one) is added to the

neutralized

specimen to be well mixed therein. In the next step, 50% ethanol solution of

<u>digitonin</u> is added to and mixed in the specimen and, after the mixture is

allowed to stand for about 20min at a room temp., the intensity of diffused

light of the incident light from a laser source is measured by a laser

nephelometer. The surfactant uniformly disperses fine particles of digitonide

formed through the reaction of cholesterol and <u>digitonin</u>. The measured value

is collated with a calibration curve obtained by using a known amount of

cholesterol to measure the cholesterol concn. in the specimen in good preciseness.

COPYRIGHT: (C) 1984, JPO&Japio

DERWENT-ACC-NO: 1984-040328

DERWENT-WEEK:

198407

COPYRIGHT 2006 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE:

Cholesterol determn. in living body sample -

by treating

with digitonin, irradiating with light and

measuring

light scattering

PATENT-ASSIGNEE: WAKO PURE CHEM IND LTD [WAKP]

PRIORITY-DATA: 1982JP-0112414 (June 29, 1982)

PATENT-FAMILY:

PUB-DATE LANGUAGE PUB-NO

PAGES MAIN-IPC

January 9, 1984 JP 59003261 A N/A

006 N/A

APPLICATION-DATA:

APPL-DESCRIPTOR APPL-NO PUB-NO

APPL-DATE

1982JP-0112414 JP 59003261A N/A

June 29, 1982

INT-CL (IPC): G01N021/75, G01N033/92

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 59003261A

BASIC-ABSTRACT:

Method comprises treating cholesterol in a living body samole (e.g.

serum) with digitonin, applying light to fine particles of digitonide formed,

and measuring the intensity of the scattered light.

In the method, the content of digitonide cholesterol in the turbid liq. is a

low concn. 0.05-1 mg./dl. Cholesterol and/or cholesterol ester are extracted

from living body samples e.g. blood serum by the usual method.

As the nephelo-metric determn. of the digitonide turbid liq. can be accurately

carried out, the determination of cholesterol can be accurately achieved by using a small amount of sample.

CHOSEN-DRAWING: Dwg.0/0

TITLE-TERMS: CHOLESTEROL DETERMINE LIVE BODY SAMPLE TREAT DIGITONIN

IRRADIATE

LIGHT MEASURE LIGHT SCATTERING

DERWENT-CLASS: B04

CPI-CODES: B01-D02; B04-C02; B07-A02; B11-C07B; B12-K04;

CHEMICAL-CODES:

Chemical Indexing M1 *01*

Fragmentation Code

M423 M760 M903 N102 P831 V600 V614

Chemical Indexing M5 *03*

Fragmentation Code

M750 M903 M910 N102 P831 S005 S032 S131 S133 S134

S142 S143 S303 S317 S503 U560 U563

Chemical Indexing M5 *04*

Fragmentation Code

M781 M903 P831 S131 S132 S133 S134 S142 S143 S202

\$303 \$315 \$500 \$502 \$515 \$800 \$803 \$833 T100 T133

T138 T142 U500 U501

Chemical Indexing M6 *02*

Fragmentation Code

M903 P831 R514 R611 R627 R638

UNLINKED-DERWENT-REGISTRY-NUMBERS: 0148U

UNLINKED-RING-INDEX-NUMBERS: 05686; 06673

SECONDARY-ACC-NO:

CPI Secondary Accession Numbers: C1984-017080

Non-CPI Secondary Accession Numbers: N1984-030445

Page 1 of 2

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number:

59-003261

(43) Date of publication of application: 09.01.1984

(51)Int.CI.

G01N 33/92 G01N 21/75

(21)Application number : 57-112414

(71)Applicant: WAKO PURE CHEM IND LTD

(22)Date of filing:

29.06.1982

(72)Inventor: MIYASHITA YOSHINOBU

KODERA HIROMASA

(54) QUANTITATIVE MEASUREMENT OF CHOLESTEROL

(57) Abstract:

PURPOSE: To carry out diagnosis of various geriatric diseases, by a method wherein cholesterol in a living body specimen is reacted with digitonin and the intensity of diffused light from the formed fine particle is measured to quantitatively measure cholesterol in good preciseness in a reduced amount of the specimen as compared to a nephelometry method. CONSTITUTION: Cholesterol or cholesterol ester is extracted from a living body specimen such as blood by acetone and, after cholesterol ester is hydrolyzed by a KOH solution, the extract is neautralized by acetic acid. One drip of a surfactant (pref., a nonionic one) is added to the neutralized specimen to be well mixed therein. In the next step, 50% ethanol solution of digitonin is added to and mixed in the specimen and, after the mixture is allowed to stand for about 20min at a room temp., the intensity of diffused light of the incident light from a laser source is measured by a laser nephelometer. The surfactant uniformly disperses fine particles of digitonide formed through the reaction of cholesterol and digitonin. The measured value is collated with a calibration curve obtained by using a known amount of cholesterol to measure the cholesterol concn. in the specimen in good preciseness.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's

decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (JP)

①特許出願公開

⑩公開特許公報(A)

昭59-3261

⑤ Int. Cl.³G 01 N 33/92 21/75 識別記号

庁内整理番号 8305-2G 6637-2G **63公開** 昭和59年(1984)1月9日

発明の数 1 審査請求 未請求

(全 6 頁)

60コレステロールの定量方法

願 昭57-112414

②特②出

願 昭57(1982)6月29日

70発 明 者 宮下佳展

大阪市旭区高殿7丁目14番17号

⑩発 明 者 小寺宏征

尼崎市東園田町6丁目83番2号

⑪出 願 人 和光純薬工業株式会社

大阪市東区道修町3丁目10番地

明 細・4

1. 発明の名称

コレステロールの定負方法

2. 特許辦水の範囲

(1)生体試料中に含まれるコレステロールにジギトニンを反応させて生成するジギトニドの散粒子に光を当て、その散乱光の強さを測定することによつて含有量を求めることを特徴とするコレステロールの定量方法。

(2)混濁液中のジャトニドのコレステロール含量が約005~1 W/d の低濃度域にある特許請求の範囲第1項記載のコレステロールの定量方法。

(3)生体試科から自体公知の方法によりコレステロール又は/及びコレステロールエステルを抽出し、抽出されたコレステロール又は/及び抽出されたコレステロールエステルを自体公知の方法により加水分解して生成したコレステロールにジギトニンを反応させる特許譲水の範囲第1項又は第 2項記載のコレステロールの定量方法。

(4)生体試料が血清であり、抽出密媒がアセトン

又は/及びエタノール溶液である特許請求の範囲 第3項記載のコレステロールの定量方法。

(5)ジギトニンが 5 () 多エタノール溶液である特 許請求の範囲第 4 項配敏のコレステロールの定量 方法。

(6)散乱光の強さを比離計で測定する特許請求の 範囲第1項~第5項記載のコレステロールの定量 万法。

(7)レーザー光源から照射される散乱光の強さな レーザーネフェロメーターで測定する特許請求の 範囲第6項記載のコレステロールの定量方法。

(8)コレステロールエステルを水酸化カリウム溶液を用いて加水分解する特許請求の範囲第3項記載のコレステロールの定量方法。

(9)ジギトニドの生成を弱酸性下で行う特許請求の範囲第1項~第8項記載のコレステロールの定量方法。

(2)

(1)界面活性剤が非イオン界面活性剤である特許 調束の範囲類 1 0 項配収のコレステロールの定量 方法。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、コレステロールの定盤方法に関する ものである。さらに詳しくは、生体試科中のコレステロールをジギトニドとし、比較分析により定 賃するコレステロールの定盤方法に関するもので

生体試料、たとえば血滑試料中のコレステロール含量の測定は、肝実質障害、甲状腺代謝異常、胆道閉塞、あるいは種々の脂質代謝障害のほか、動脈硬化、高血圧などの成人病の診断に極めて重要なものである。

コレステロールの従来の定量法としては、主に 比色法であり、リーベルマンーブルハルト反応、 アートルエンスルホン酸反応、スルホサリチル酸 反応、塩化鉄反応、Oーフタルアルデヒド反応な どがある。

さらに最近になり、コレステロール代コレステ (3)

コレステロールは適当な溶媒中でジギトニンと 不溶性の分子複合体であるジギトニドを形成する。 とのジギトニド形成は、コレステロールの 3 位の 水酸菇に特異的であり、3 位の水酸菇がエステル 化されたものとは結合しない。

とのジギトニドの混濁の強さを比色計を用い、 照射光の減少をみる比濁法で測る試みがなされて いる。

1952年には、ポラクらは血液をスペリーウェブ法に従つてコレステロールをジギトニドとして比酸させ、その比酸をガラス棒で再浮遊させたものを比色計で比濁する方法を報告している。
(ジヤーナル オブ ラボラトリー アンド クリニカル メディシン 39巻 791~794
頁、1952年)

との方法では混濁液が均一とならず、正確な値が得られないことから、1957年にはカステロらが混濁液に界面活性剤のツイーン20の添加を 試みている。(アメリカン ジャーナル オブ クリニカル パソロジー、27巻、108~115 ロールオキンダーゼを作用させ、生成する過酸化水果にベルオキンダーゼ共存下で被酸化性星色試験を反応させ、その星色の強さを比色定量する、酵素を用いる方法が見出されている。コレステロールエステラーゼを作用させ、遊離型のコレステロールとしたのちコレステロールオキンダーゼを作用させる。しかるに、これら従来法にはそれぞれ離点がある。

前者の比色法では、いずれも永酢酸、無水酢酸、あるいは硫酸などの薬品を用い、取扱い上特別の注意を要し、その上自動分析装置への適用も通常の適用の仕方では機器の損傷を引起す為好ましくない。

後者の酵素法では、生成する過酸化水素をベルオキンダーゼの共存下で被酸化性指示薬を酸化発色させており、生体試料中の選元性共存物質、たとえばアスコルビン酸、グルタチオン、ビリルビンなどの影響は避け得ない上、高価な酵素を用いればならず経済的負担が大きい。

(4)

頁、1.957年)

との場合でも分散粒子が大きく、不安定な為温 度ならびに測定時間を一定にしなければよい再現 性が得られないととが記載されている。

照射する光の透過率によつてその樹度を求めるとれらの比濁法では、多量の試料を用いる必要があり、混濁液中のコレステロールの含有量は1~5 mg/dlとなつている。因にこのような高濃度にあつては、生成、浮遊する粒子も大きく成長し、均一かつ安定に浮遊させておくことが困難となってあり、測定精度の点で実用に供し難く普及するに至つていない。

本発明者らは、これらの欠点に鑑み鋭意研究の 結果、ジギトニドの混濁度は混濁液中のジギトニ ドの散乱光の強さを測定すれば定量的に求められる ことを見出し、本発明を完成するに至つた。

即ち、本発明は生体試科中に含まれるコレステロールにジギトニンを反応させて生成するジギトニドの微粒子に光を当て、その散乱光の強さを測定することによつて含有量を求めることを特徴と

(6)

するコレステロールの定量方法である。

本発明者らけ、混稠液中のジギトニドのコレステロール含量が約 Q U 5 ~ 1 mg/ddの低機度域にあつてけ、生成、浮遊する粒子が細かく、かつ浮遊安定性が極めてよいことを見出した。

ジギトニド混陶液の測定が散乱光測定、すなわ ち比髄法によつて精度よく測定し得るということ は全く予想されないことであつた。

なお、混濁液に光を当て散乱光する光の強さを 御定する比例法によれば比濁法と比較して一般的 に少量の試料での定量が可能である。

例を挙げて本発明を更に詳細に説明すると次のとおりである。

血幣 0.0 2 nd 化アセトンーエタノール混液 5 nd を加えてよく提とう抽出する。 沪過によつて上宿を分離する。 その上間 1.0 nd をとり、 これに 0.5 ラジギトニン溶液 (50 のエタノール) 2 nd を加える。 室温で 20 分間放置後、比觀計で散乱光強度を測定する。

比職計としては通常のものが使用できるが、レ (7)

生成させたのち、微粒子による混濁の散乱光強度 を測定する。

ジギトニドの生成は弱酸性下で行う。酸として は酢酸の他、希釈した塩酸、硫酸が用いられる。

界面活性剤の添加け、ジギトニドの浮遊を一層安定化させる。界面活性剤としては、ツイーン 20、トリトン X ー 4 0 5 、プリッシ 3 5 などの非イオン界面活性剤が使用できる。界面活性剤は 0 0 1 ~ 0 5 多の範囲で添加するが、0 1 多が好ましい例である。

本発明の混濁液の散乱光強度の安定性は、第1図に示すように1時間後も変化がない。

また実施例2に従つてコレステロールを一定量 溶解させた標準液を用いた場合の検量線は第2図 のとおりである。

本法(実施例 2)とコレステロールオキンダーゼ法(チャールス シーフライン 6、 クリニカルケミストリー、 2 0 巻 4 7 0 ~ 4 7 5 頁 1974年)との測定値の比較を第 3 図に示したが、血溶
は料中の総コレステロールの測定値の相関係数が

ーザー光旗を用いるレーザーネフェロメーターが 好ましい。

血清中では、コレステロールは 3 位の水酸基が 脂肪酸とエステル結合したエステル型コレステロ ールとフリーの遊離型コレステロールが存在する。

ジギトニンは遊離型のコレステロールとのみ結合するから、エステル型のコレステロールはあらか じめ加水分解を行う必要がある。前配のアセトンーエタノール抽出液に、水酸化カリウム溶液 (アセトンーエタノール溶液)を加えて37℃で加温する。との液を酢酸で中和ののち試料とする。

生成したジギトニドは、アセトンあるいけエタノールには溶解しない。他方ジギトニンは上配溶 媒に溶解する。ジギトニドの混陶を生ぜしめる溶 鉄としては、前配の水溶性溶供のアセトン、エタ ノールなどを単独、あるいは混合で用いる。好ま しくは、生体試料からの抽出にはアセトンーエタ ノール混液を用い、ジギトニンは50 多エタノー ル溶液として加える。

一定時間室隔にて放置し、ジギトニドを完全に (8)

Q9111とよい一致がみられた。

以下與施例を示す。

実施例 1. 血消中遊離コレステロール含量の測定 試楽の調整

(1)アセトン…エタノール溶液

フセトン1容とエタノール1容とを混合する。

(2)トリトン X 一 J O O 溶液

トリトンX-100 10gを水100mlに 溶解する。

(3)酢酸溶液

氷酢酸10m~に水90mを加えて混合する。

(4)ジギトニン溶液

ジギトニン Q 5 g を 5 0 あエタノール (含水)

(5)コレステロール標準液

コレステロールの結晶 3 0 0 mg を 秤り 氷酢 酸 1 0 0 ml に 密解する。

この300mg/dlの標準液をさらに氷酢酸にて適宜希釈し、検量線作成用の標準液を用意する。

t d

測定操作

血沼 Q U 2 mlを微量ピペットで試験管にとる。 とれにアセトンーエタノール混液 5 mlを加え、ミキサーで時々攪拌しながら室温で 1 U 分間放置する。

ついで遠心分離機で3000 r.p.mで10分間 遠沈する。その上滑1.0 mlを別の試験管に移す。

とれに酢酸粉液を1 腐. ならびにトリトンXー 100溶液1腐を腐下しよく振り混せる。

ついでジギトニン溶液 2.0 mlを加えよく振り混ぜ、室區にて 2.0 分間放置する。(試料)

別に血液と同様にコレステロール機準液についても操作する。(標準液)

ついで、試料、標準液化ついて散乱光強度を測定し、標準液化よる検量線から検体の遊離コレステロール含量を読みとる。

(1)アセトンーエタノール溶液

フセトン1谷とエタノール1谷とを混合する。

(1)

とれにアセトンーエタノール混被 5 mlを加え、ミキサーで時々攪拌しながら室温で 1 0 分間放置する。

ついで遠心分離機で3000 r.p.mで10分間 遺沈する。その上消0.5 mlを別の試験管に移す。

水酸化カリウム溶液 0.5 mlを加え、37℃で30分間加温する。冷後、とれに氷酢酸 0.1 mlを加える。

これにトリトン X - 1 0 0 溶液 1 滴、ついでジギトニン溶液 2 0 配を加えよく振り混ぜ、窒温にて 2 0 分間放催する。(試料)

別に血液と同様にコレステロール領準液についても操作する。(標準液)

ついて、試料、模単液について散乱光強度を測定し、標準液による検量線から検体の総コレステロール含量を脱みとる。なお、ツイーン20、ブリッジ35付花王アトラス株式会社の商品名、トリトンXー100、トリトンXー405付RohmをHaas

4. 図面の簡単な説明

6.3

(2)トリトン X - 1 0 0 溶液

トリトンX — 1 0 0 、1 0 9 を水 1 0 0 al に 溶解する。

(3)水酸化カリウム溶液

水酸化カリウム 1 8 を水 2 ml に加え、よく振り混ぜ完裕させる。との裕液に、アセトンーエタノール(1 容: 1 容)を加えよく振り混せ全容を 2 5 ml とする。

(4) 氷 酢 酸

(5)ジギトニン溶液

ジギトニン Q 5 8 を 5 U 多エタノール (含水) 1 0 U al に 路解する。

(6)コレステロール 標準液

コレステロールの結晶 3 0 0 mgを氷酢酸100 ml に裕解する。

この300 mg/dlの標準液をさらに氷酢酸で 適宜希釈し、検量額作成用の標準液を用意する。

初足操作

血滑(102mlを微量ピペットで試験管にとる。

02

期1 図は、実施例1 に従つて操作した混渦液の 散乱光強度の安定性を示すグラフ、第2 図は、実施例2 に従つてコレステロールを一定量溶解させ た標準液を用いて描いた検量線、第3 図は、本法、 実施例2 とコレステロールオキンダーゼ法(チャールス シーフラインら、クリニカル ケミスト リー、2 0 巻 4 7 0 ~ 4 7 5 頁 1 9 7 4 年) との相関を示すグラフである。

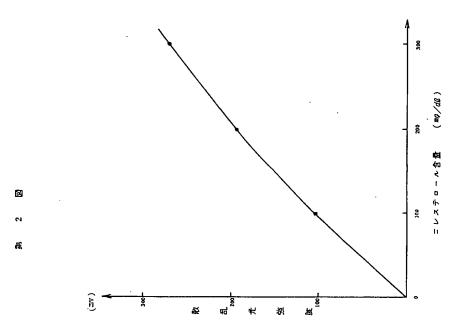
r : 相関係数

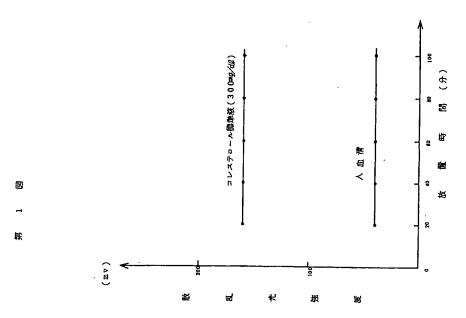
n : 検体数

v: 直額の式

特許出願人 和光純薬工業株式会社

114





—345—

